

THE Y'S MEN'S CLUB OF NASU

NETWORK NASU

CHARTERED 1995



那須ワイズメンズク

2023~2024年度 No.290

2 月報

那須クラブ会長 主題

「若者と共に」成長しよう



強調月間：TOF

FF

HTW

今月の聖句 ヨハネによる福音書 17 : 21
父よ、あなたがわたしの内におられ、わたしがあなたの内にいるように、すべての人を一つにしてください。彼らもわたしの内にいるようにしてください。(略)

2月第1例会(ユースリーダー活動報告)

日時：2月15日(木)午後6時~8時30分

場所：日本基督教団 西那須野教会 1階ホール

内容：ユースリーダー活動報告、

早く着いた者より、各自感謝をして食事をするその後、

6時30分より例会を開催

司会 副会長 田村 修也

開会点鐘

会長挨拶

ワイズソング斉唱

ワイズの信条

聖書朗読・祈祷

出席者自己紹介

ユースリーダーによる報告

全国リーダー研修会報告

報告者 矢部将吾さん(ちょんリーダー)

ユースリーダーの報告

報告者 武田将吾とちぎYMCAスタッフ

(かぶきリーダー)

報告事項 YMCA・ワイズ

YMCAの歌

閉会点鐘

会費 メンバー 1,000円

参加者は、弁当の準備の都合があるので、2月12日(月)までに村田副会長(090-9095-4035)に連絡のこと

2022~2023年度 主題

国際会長：(IP) ウルリック・ラウリドセン(デンマーク)

「輝かそう、あなたの光を」

アジア太平洋地域会長：(AP) 利根川 恵子(川越)

「改革のための光となろう」

東日本区理事：(RD) 山田 公平(宇都宮)

「未来のために今、学びと気づきを！」

未来のために、自信を育み、真の喜びに出会う！」

北東部長： 大久保 知宏(宇都宮)

「クラブのミッションを育てよう」

クラブ役員

会長：河野 順子

副会長：村田 榮・田村 修也

書記：藤生 強

会計：村田 榮・鈴木 保江

担当主事：平山 雄大

ブリテン：田村 修也・村田 榮

1月例会データ(出席率：100%)

在籍者 8名

出席者 8名 メネット 3名 ゲスト 5名 ユースリーダー 1名

2月 Happy Birthday

2/12 村田 榮メン

・3月第1例会(おいに食べて、おいに語ろう)

日時：3月14日(木)午後6時~

場所：日本基督教団西那須野教会1階ホール

内容：ユースリーダーとの食事会

・4月第2(役員会)例会

日時：3月22日(金・祝)午後4時30分

場所：田村副会長宅

巻 頭 言

村田 榮

喜寿を迎えて

那須に移り住んで、13年が過ぎようとしております。その間、那須ワイズ・北東部のワイズの皆さんとの交流、那須シニアカレッジの写真教室とパソコン教室等々で仲間を得ることができました。メネットがはじめたスポーツ吹矢を小生もはじめて、公認指導員の資格を習得し、那須町に活動の場を広めようと努力をしているところです（メネットは今休会中です）。

その13年間、ずうっと（写真・パソコン・吹矢）一緒に活動をし、小生宅でとれた野菜をおいしいと云って食べてくれ、奥様と一緒に来て、大根の間引き、タケノコ堀、ジャガイモの収穫、里芋の収穫を手伝ってくれていたU君がいます。小生と地域は違うが同級生で、小生のよき理解者です。何事にも積極的で、社交的な性格の持ち主です。

そのU君が、昨年12月30日に突然亡くなりました。死亡の原因については、詳しいことを聞いておりません。その週の初めの25日に正月用の野菜を採りに来た時は元気でしたから、突然の訃報にびっくり仰天でした。正月の間は、メネット共々、U君のことを考えてショックを引き摺っておりました。

年齢的には、心臓とか脳とか血管の疾病であると思われれます。小生も血圧が高めで薬を服用しているので、同じような突然死は考えられます。

「長寿の心得—人生は山坂多い旅の道—」に喜寿のところには、「77才でお迎えの来た時は、せくな老楽これからよと云へ」と記載されている。本当にこれからいろんな事にチャレンジをして楽しむ時であると思います。

小生も、自分の生き方を見つめ直して、U君のように積極的にそして前向きに「人との輪を広げ」人生を送っていきたくて思っております。

「人生100年時代」にむけて、ワイズ・YMCA・西那須野幼稚園・アジア学院・聖園那須老人ホームとの関係は今以上に交流を深め、楽しみながら畑仕事・草刈に励みながら、一方では、健康診断を受け、「1日1万歩」を目標に歩くように心がけ、ボケ防止のためには、今までやってきた、写真を撮影する事、パソコンを毎日触る事、スポーツウエルネス吹矢式腹式呼吸で吹矢を毎日吹くことに心がけていきたくて思っています。

教会生活では、日本キリスト教団西那須野教会に今年2月に転入会します。聖書に学び、毎日の生活を送っていきたくて思っております。

これからも、多くの方々との出会いを楽しみにし、大切にしていきたいと思っております。



2024. 1.20 1月例会（大久保北東部長公式訪問）於：北海道料理積丹

1月第1例会(北東部長公式訪問)報告

河野、田村、藤生、原田、鈴木、平山、張、村田のメン、田村、藤生、村田のメネット、ゲスト：大久保知宏北東部長、ユースリーダー1名(こーちゃん)、山田公平東日本区理事ご夫妻、赤坂ご夫妻、計17名

恒例の「新年例会」とし、北海道料理「積丹」(大田原市中央)にて美味しい食事を頂きながら行いました。

例会には北東部長の大久保知宏ワイズメンが公式訪問として出席されました。そしてゲストとして東日本区理事の山田公平ワイズメンをお招きし、「ユースリーダーたち若者に期待するもの」をテーマにワイズが取り組んでいる「ユースアクション」についてお話を伺いました。

開会点鐘と河野会長あいさつに続き、大久保北東部長よりあいさつを頂きました。北東部として「パレスチナのガザYMCAへの支援を行っていること」「東日本区が進めているユースアクションへ積極的に関わっていること」「(4つある)事業主查の働きの一部を各クラブに担ってもらうことを提案する予定。例えばユース事業について那須ワイズが那須YMCAのユースをサポートするなど」「(大久保北東部長が在籍する)宇都宮ワイズではリーダーOB OGが入会する。他クラブも若い人と一緒に活動を出来るよう願っている」などお話しされました。原田ワイズの食前感謝の祈りをもって食事が始まりました。食事中に自己紹介を兼ねて「この1年の願い」をそれぞれ伝えました。「健康面など自分自身のこと」「ワイズの働きのこと」など、色々な願いが伝えられました。



平山担当主事が12月24日のクリスマスに洗礼を受けたことを披露するとともに、那須クラブより讃美歌を贈呈した。

食事が落ち着いた頃、ゲストの山田東日本区理事からお話を頂きました。始めにご自身のYMCA歴をお話しされました。YMCA職員として仕事をする中で、常にワイズからのサポートを受け、YMCA初の老人ホームであるマイホームきよはらの開設など、多くの事業を実現出来たことなどをお話しされました。そして「ワイズとYMCAを結び付けていくことが今の使命と考えている」とお話しされました。



次に、現在ワイズが取り組んでいる「ユースアクション」についてお

話をされました。以前から「ユースの育成はYMCAの仕事→YMCAがユースを育成する」や「ユースは自ら成長するものであって、育成されるものではない」など議論がある中で、山田東日本区理事は「ユースの育成とは、ユース自身が自信をつけること」であり、そのために「自分でチャレンジする」「自分で考えて、社会のための活動を実行し、その経験から色々なことを感じる」ことが大切であるとお話しされました。そしてワイズやYMCAのユースに対する働きはその機会を整えることではないかとお話しされました。誰かの指示で行動するより自分で考えて行動した方が、失敗も含めて全ての経験が「力」「糧」となるはずであり、それらが「ユースの育成」と感じました。

続いて2022-23年のユースアクションについてお話しされました。18プロジェクトが応募され、内10プロジェクトに最大20万円の助成が行われたとのことでした。事例として、山梨YMCAユースリーダー会が行った清掃活動を紹介し、「活動の様子がマスコミによって紹介され、それ以降の活動には多くのボランティアの参加があった」とのことでした。

山田東日本区理事のお話から、那須ワイズにとってたくさんのヒントを得ることが出来ました。那須YMCAと協力しながら、ユースへの支援活動を進めて行きたいと思います。

なお、能登半島地震のための献金が25,000円集った。

2024年2月第2例会(役員会)報告

日時：1月26日(金)午後4時30分～

場所：田村副会長宅

出席者：河野、田村、村田、平山の各メンバー
田村メネット、

1. 1月例会の振り返り

17名の内リーダーが1名参加。食事の量は多かったがよかった。これからもリーダーとの関わりを大切にしていきたい。

2. 2月例会について

2月例会は、ユースリーダーの報告会。発表者の都合を考えて、2月15日（木）午後6時より、早く来た人より食事をし、報告会は、6時30分より行う。発表者は、矢部将吾（ちょん）リーダーと武田将吾YMCAスタッフに依頼。司会は、田村副会長。会費はメンバー・メネット1,000円。弁当の準備は村田が行う

3. 3月例会は、リーダーとの食事会を計画する。

4月例会は、日赤の井戸沼さんをお迎えして、能登半島地震に支援の報告会を行う。

4. 3月役員会は、2月23日（金）午後1時30分より行う。

5. 1月例会で集めた、能登半島地震の献金にクラブとして5,000円プラスして30,000円を東日本区に送金する。

6. シイタケ昆布の購入を行う。できれば、例会時に配布したい。

三島開拓地での孤児教育事業—本郷定次郎の生涯—（4）

副会長 田村 修也

青木農場での生活ぶりは、佐藤一誠著「育児暁星園」より抜粋する。（佐藤一誠は、この他にも「垂死の義人」「本郷ひで子」「那須野ヶ原」等の著書があり、下野日々新聞には、たびたび定次郎夫妻について執筆している）。

暁星園那須野ヶ原に移る。されどその生活は依然として涙の生活なりき。否より多き悲劇は絶えずここに繰返されたりき。移住の当日の如き、定次郎は一群の孤児を率いて家具雑品を積載せる荷車を挽き、粉々たる飛雪を犯してその地に向ふ。夕刻に至り漸く開墾地事務所に着したるも住むべき家は未だ調はず切に哀を乞ふて漸くくずれ果てたる牛小屋二階を借りる。晩さんの料にせむと米を借らしむことを求めれば無常貪欲の土地管理人は眼前数十俵を積みながら一粒もなしとて背んぜず。買はむか二三里と沖にありて通路不案内に且つ疲労極まれるを如何にせむ。（中略）

その後毎朝各々鋤を背にして農場に出力限りに労作するを常としたるが、住宅は合隘陋なるは更にも言はず食料は稗飯を常食とし、副食は僅に蕨、野蒜及び野生の菜物を摘み来り、味噌汁に煮て食するのみ、稗尽くれば即ち豆腐粕に馬鈴薯を混じ、煮て口にするに至る。殆んどこれ牛馬の飼料とも見るべく、時にはそれさえ得る能はずして飢に泣けることしばしばなりき。かかる悲惨なる生活を営みつつ器械も

なく牛馬なき唯だ十三四才の年長孤児を相手として荒蕪の土地を耕し居る中収容せる薄運児はますますその数を増して、七十余名の大家族となり…云々。

このようにして、無理な集団生活がたたって二十七人が一時ぶよに刺され腫物をつくった。たまたま東京赤坂病院の医師ホイットニーから醸金四十八円が届いて、塩原温泉に病児を送ることができた。この義援金に書を添えて次の如くあった。

予は四五日前、夜に入り其地より帰る途中一松樹の下に六才ばかりなる小児の立ちて、何やらん悲しげに叫ぶを見る。即ち立ち止まりてひそかにこれを聞くに、「主よどうぞお父さんに馬を一匹与えて下さい。私達は腫物が出来て困っています。温泉に行けるようにして下さい。又夜具がありませんからあたえてください」と片言ながら繰り返し涙をもって神に祈り居れるなりき、誰何すれば即ち貴園の児也。感に堪えず。乞うこの金を以て速やかにいじらしき児等の心をなさしめよ」と。

明治二十五年七月二十九・同年十二月、青木周蔵宛三浦泰輔書簡（青木家文庫）によると、本郷定次郎と暁星園児童全員が狩野村三島に突然移ってしまった経緯が書かれている。

前掲坂根義久氏の論文を参照すると、暁星園は明治二十年、カソリック教会系マリア会の宣教師が来日、その援助で、二十一年に本郷定次郎が設立した孤児院と思われる。（※註、当初カソリック信者であったかは不明。現実にHSプロテスタント系の教会、学校が援助に当り、霊南坂教会で彼の葬儀が行われた）。彼の感化力は大きく青木開墾内の移住小作人、近隣の農民の中には、本郷の説教を乞う者も居た。青木開墾地内の三宅・繁三郎・長谷川の三人は、本郷の奨めにより熊本バンドの横井時雄（※註小楠の子で日本最初のセツルメント事業を開く）から洗礼を受けた。それが原因となって明治二十五年夏管理人重久徳治は三宅ら三人を解雇した。三宅らは重久の措置を不当として本郷に与したので、本郷と重久の不和がつのつた。

暁星園が入植するに際しては、種々の条件を定めていた。青木宛泰輔の報告では、二十五年五月から十一月までに暁星園では、僅か五反歩の開墾しか行わず、ために園児の食糧にも窮した。（中略）空腹に堪えかねた園児らは青木開墾に栽培してある野菜や穀物、果ては人夫の食糧を盗む事件が頻発した。

（以下次号へ）

西那須野幼稚園だより

学校法人 西那須野学園

西那須野幼稚園

園長・理事長 福本 光夫

「自分を愛する様に他の人を愛しなさい」(聖書)

昨年は、本園の教育にご理解・ご協力をいただき、感謝申し上げます。

冒頭の言葉は、本園の建学の精神です。本園が創立されて67年になります。子どもたちのおかれています社会状況に対応しながらも、建学の精神を含め大切な事を守り、新しい年の歩みを始めます。子どもの最善の利益を考え、対応していきます。

さて、能登半島大地震については、熊本地震同様、全国認定こども園協会を通して本園で備蓄している非常食200食と水2ℓ ボトルを100本の提供を申し出たところ、水のみありましたので送りました。余震も続くなか復旧が安全に進むことを願います。

ところで、12月22(金)ー24日(日)にかけて、西那須野教会牧師潘炯旭先生のご尽力で、韓国へ職員研修に行きまして。園としては16年振り5回目の海外研修で韓国は2度目となります。こちらからは、学園の理事2名、幼稚園、保育園、シャロームからの参加希望者18名、そして、専門通訳と研修コーディネーターとして共愛学園前橋国際大学の張信愛先生が現地で行きまして。

韓国のヘイソン幼稚園(園長インヨンヒ先生)を訪問し、クリスマス発表会に参加をさせていただき、賛美歌やこちらから持参したハンドベルで「きよしこの夜」の演奏をする機会を与えられました。プログラムの日本語訳だけでなく、こども達のクリスマスのカンタータでは、日本語の歌詞がプロジェクターに流れるなど、お忙しい中、準備され、歓待していただいていることに感謝しました。

午後の懇談会では、お茶の先生がいて下さったお茶をいただきながら、園長先生によるヘイソン幼稚園の教育について・次に、幼稚園教育連盟会長さんによる韓国の幼児教育要領である「ヌリ課程」について・そして、元教師によるキリスト教主義幼児教育についてのお話をうかがいました。今後も交流が続くことを願っています。

さて、韓国の小学校は既に15人学級と欧米並みになっており、ソウル市内では学用品の無償化が実施されているとのことでした。乳幼児保育においても、カリキュラム「ヌリ課程」は、日本保育学会でも注目されており、日本だけが取り残されている感じます。

韓国の今後の課題は「幼保一元化」ということでした。

日本の「幼保一元化」は、馳浩元文科大臣・現石川県知事のご講演によると、各団体から政治献金を横串で取れる仕組みを残したいという思惑で、戦後最大の改革と言われた一元化の「認定こども園法」案を廃案にして、現在のような、幼稚園、保育園、幼稚園型認定こども園、幼保連携型認定こども園、保育所型認定こども園、地方裁量型認定こども園という複雑な形にしたとのこと。そして、今年度、こどもがまんなかのこども家庭庁ができましたが、保育と療育の一体化、医療的ケア児支援、誰でも通園制度など、幼稚園の10倍ある保育所がまんなかとしか思えない制度が展開されています。(しらゆり 2024.1.9 加筆修正)

アジア学院だより

学校法人 アジア学院

アジア農村指導者養成専門学校

校長 荒川 朋子

非暴力コミュニケーション

アジア学院では2月中旬の3日間、職員研修の一環として「非暴力コミュニケーション」の(英語では Nonviolent Communication、略してNVC)のワークショップを行いました。「非暴力コミュニケーション」(以下NVC)はすでに10年以上前からアジア学院では知られていて、授業にも取り入れられていますが、講師を迎えて職員全員を対象に行うのは初めてのことであります。

NVCジャパンネットワークのホームページには、「非暴力コミュニケーション」とは、「日本では「思いやりの／人生を豊かにする／共感的コミュニケーション」などとも呼ばれています。アメリカの心理学者マーシャル・ローゼンバーグ博士が体系化したコミュニケーション方法で、日常生活から社会問題、ビジネス、修復的司法、民族間紛争など世界中で幅広いジャンルで活用されています。」とあり、さらに、

- それは、頭(思考)で判断・批判・分析・取引などをするかわりに、自分自身と相手の心(ハート)の声に耳を傾けることから始まります。
- 具体的には、観察(Observation)、感情(Feeling)、ニーズ(Need)、リクエスト(Request)の4要素に注目しながら、自身の内なる対話や、相手の言葉の奥の意図の推

測、相手との対話を行います。
などがあります。

ワークショップでは、講師は「共感ランプ」という道具を用いて、ゲーム形式で教えてくれました。「共感ランプ」は24枚の様々な感情（嬉しい、ワクワクする、不満な、混乱した等）が書かれたカードと、24枚の様々な人間のニーズ（必要-成長、スペース、選択、学び等）が書かれたカードから成り、このカードを使いながら、ある特定の事象に起こった自分の「感情」と、そのもとになっている「ニーズ」を探し出していきます。

ここではゲームの中でも最も基礎的な「共感サークル」の紹介をします。このゲームはひとりで行うよりも、数人で行うことでより効果的になります。自分のことは自分が一番よくわかっているというのは事実であることもありますが、自分の感情が揺さぶられた状況で、自分自身を冷静に見つめるのはなかなか難しいからです。

4-5人で輪になって、話し手になった人が感情が動いた出来事を1-2分で簡潔に話します。聞き手たちはその話を聞きながら、その時話し手にはどんな感情が起こっていたかを客観的に聞き取り、手持ちの「感情カード」から、どんと「これかな？」と思う感情カードを出していきます。話し手は話し終わったら、聞き手によって出された「感情カード」の中から、これぞぴったりという「感情カード」を数枚選び出します。

次のステップはニーズ（必要）の発見です。すべての感情は、自分のニーズが「満たされた」か「満たされていない」かで起きているというのが「非暴力コミュニケーション」の考え方です。例えば「食べ物」というニーズが満たされなければ、人はだれもイライラし、不満を覚えます。「尊敬」というニーズが満たされなければ、がっかりしたり怒りを覚えるかもしれません。ゲームでは自分で選んだ数枚の「感情」はいったいどんなニーズがその背景にあったかを考え、だんだんとその事象の深層が明らかになっていきます。

面白いのは、「感情」でも「ニーズ」でも、自分では思いつかないようなカードが仲間によって提示されることです。それによって、思い込みやこり固まっていた思考が崩されていきます。

「感情」につながる「ニーズ」を発見したら、最後のステップはそのニーズをどう満たしていったらいいのか考えます。何かの事象が起きるのは、たいてい誰か相手がいることがほとんどですから、その相手に何かを「要求」しなければ物事も関係性も変

わりません。しかしこの「要求」のプロセス、仕方にも非暴力コミュニケーションの方法があります。

（ここでは省略）

アジア学院では文化や背景が違う人が家族のように生活していますから、誤解、混乱、対立、様々な感情が渦巻く状況は当たり前のようにあります。しかし、こうした状況は日常生活の中でも、平和のいない手として成長するチャンスがあふれているということでもあります。NVCとは「お互いの内面を侵さず、生来備わっている力を奪うことのない、すなわち自分と相手を尊重する方法でもあります。非暴力のゆえんです。ここから、ともに平和をつくりだす道をひらきます。」とあります。

こうしたスキルをこれからも高めていきたいと思っています。

YMCAだより

【ウィンタープログラムが終了しました！！】

12月下旬からスタートしましたとちぎYMCAウィンタープログラムがコロナの影響による中止なども無く、予定通り実施されました。大きなけがや事故もなく無事に終了いたしました。総勢120名がキャンプやデイプログラムに参加し、冬の時期ならではのスキーや雪遊び、餅つきなどを体と心で体験し様々な成長が子どもたちに見られました。どのプログラムにおいても有意義な時間を過ごし、貴重な体験を重ねることができました。



YMCAのプログラムには Caring（やさしくする）、Honesty（しょうじきになる）、Respect

（人を大切におもう）、Responsibility（できることは自分からする）というYMCAで大切にしている4つの想いが込められています。プログラムの様々な場面で、子どもたちがそれらを感じ考えてくれたらとても嬉しく思います。また、その経験が子どもたちを成長させ、日々の生活で活かされることを願い、今後もプログラムを展開していきます。

【YMCAピンクシャツデー2月21日（水）】

ピンク色の服を着ていじめ反対をアピールする「ピンクシャツデー」を今年も全国のYMCAで行います。この運動は2007年カナダで、ピンク色のシャツを着た少年がゲイだといじめられたことに

抗議し、皆でピンクシャツを着たことから始まりました。社会全体がいじめに対して「自分事として」向き合うこと、そして被害者と加害者以外の立場にいる人が「傍観者にならないこと」が、いじめられている人を救うことになると私たちは考えます。公平で平和な世界の実現を目指していきます。また、今年2月9日にリーダーたちと自分たちのリーダー会の在り方（コミュニティ）について考えるリーダートレーニングを予定しております。

2月21日はみなさんでピンクシャツを着ましょう！

【とちぎYMCA大会2023が行われます】

今年も宇都宮市青少年活動センター（トライ東）でとちぎYMCA大会が行われます!!

とちぎYMCA大会はとちぎYMCAに関わる全ての皆さまやこれから関わるあらゆる方々と一緒に、YMCAの働きを通して未来に期待していくための大会です。

今回は第20回世界YMCA大会で採択された「vision2030」と「とちぎYMCA50周年に向けて」の中期計画を重ね、会員の皆様、地域の皆様、とちぎYMCA

に関わる全ての皆様と共にとちぎYMCA50周年に向けてのスタートの契機とさせていただきます。

詳細は、とちぎYMCAホームページにてご案内いたしますので、続報をお待ちください。



【とちぎYMCA・那須YMCA2月の予定】

- ・ 2/9 (金) ピンクシャツデーリーダー
ートレーニング
- @宇都宮 YMCA・オンライン
- ・ 2/3 (土) サタデークラブ@なす高
原自然の家・雪遊び
- ・ 2/15 (木) 全国リーダー研修会・1
年間の報告@西那須野教会
- ・ 2/17 (土) サタデークラブ@なす高
原自然の家・雪遊び
- ・ 2/17・18(土・日) 野外クラブ雪遊びキャ
ンプ@なす高原自然の家
- ・ 2/21 (水) ピンクシャツデー
- ・ 2/25 (日) Yキッズ@雪遊び

ユースリーダーのつづやき

1. 名前（リーダー名） 2. 学校名 3. 出身地 4. YMCAに入ったきっかけは？ 5. 思い出に残った活動とその理由は？ 6. 今後の進路は？ 7. YMCAに一言

お休みします

3月例会の予告

2024年3月例会は、ユースリーダーを招いて、共に食事をし交流を深める会です。

一品持ち寄り、午後4時よりの準備を行います。多くのご参加をお願いします。

日時：3月14日（木）午後6時～8時30分

場所：日本基督教団西那須野教会1階ホール
プログラム

6時例会 開催

司会：平山担当主事

開会点鐘

会長挨拶

ワイズソング

ワイズの信条

聖書朗読・祈禱

潘 牧師

「おいに食べて、おいに語ろう」

質疑応答

諸報告（YMCA・ワイズ）

YMCAの歌

閉会点鐘

会費 メンバー 1,000円

参加者は、3月11日（月）までに村田副会長（090-9095-4035）に連絡のこと